

【フリーメイソンとユダヤ民族の関係について】

掲題のトピックについて考察するのに役立つ以下の資料があるため、そこから引用抜粋して内容を要約する。

引用文献：『秘教心理学』アリス・ベイリー AAB ライブラリー 翻訳・発行 P.472～P.482



アリスベイリーはチベットのジュワルクール覚者のメンタルテレパシーによる接触を受けて、彼が口述したものを代筆する依頼を受けた、その依頼に従って、覚者との共同作業によって筆記したものがアリスベイリーの一連の著作である。

(引用開始)

ユダヤ人問題

諸国家と光線に関連して、(いわゆる)ユダヤ人問題の原因の一部になっているいくつかの根本的な状態について述べておきたい。この問題は数世紀にわたって存在してきたが、抱きうる最も深い懸念を、この時期、惑星ハイラーキーのメンバーを含めた大勢の人々に抱かせている。もしこの問題が解決できれば、それは世界に理解と調和を復興させる強力な要因の一つになるであろう。この問題は、世界中の善意の人々の協力なしで解決することはできない。この問題に関して私が述べることで、チェックしたり証明したりできるものはほとんどない。というのは、**問題の糸口は、非常に古い時代に、文字通り、太陽が双子座にあった頃に見られるからである。当時、フリーメイソン友愛団のすべてのメンバーたちが知っているように、フリーメイソンにおける大いなる道標である二本の柱が立てられた。そのため、フリーメイソンが行うすべての実践にはユダヤ的な色合いが見られるのである。**とはいえ、ユダヤ的という言葉が今日意味するような意味においてはではないが。したがって、もしこれらの事実にそのような太古の意味合いが含まれているならば、私の言葉が正確であると言ったり、私の結論が正しいか間違っているかを判断することが誰にできるであろうか。私は、人間が知っているどのようなものよりも古い記録から得ることができる事実を提供するだけである。

ユダヤ民族のパーソナリティー光線、物質形態の光線は第三光線である。魂光線は第一光線である。彼らの占星学上の宮は山羊座で、上昇宮は乙女座である。水星と乙女座が彼らの運命において重要な役割を果たしている。これらのヒントは、進歩した学ば人々や占星学者に対して、ユダヤ民族の奇妙な歴史に光を投げかける際立った論点を十分に提供しているはずである。この第三光線の影響力を受けているため、ユダヤ人々にはフォースとエネルギーを操作し、望んだ目的を

達成するために「陰で糸を引く」傾向があるのである。一つの民族として、彼らは生まれながらの立法者であり、しかも魂光線が第一光線であるため、支配し統治する傾向がある。またそのため、彼らの歴史には山羊が絶えず姿を現わし、メシアを産むべき聖母について教えられているのである。

どのグループにおいても 天国のグループであろうと、地上のグループであろうと、反逆し、反抗し、同じグループ内の他の人々とは異なったイニシアティブを発揮する傾向を示す人々が常に何人かいる。太古の聖典において寓意的な言葉遣いで伝えられているところによると、私たちの太陽系が誕生したときに「天国で戦いが起こり」、「太陽とその七人の兄弟たち」は、完全に調和して行動していなかった。そのため（ここにヒントが隠されている）私たちの地球は七つの惑星の一つではないのである。私たちが知っているように、プレアデスの七人の姉妹たちが迷子になったという古代の伝説があり、このような伝説は他にもたくさんある。また、神々の会議室は常に平和で理解に満ちていたというわけではなく、時には言い争いや戦いがあった。このことは旧約聖書のいくつかの話で繰り返し述べられている。象徴的な言い方をすれば、何人かの神の子らは、あるとき「夜明けの子であるルシファー」に導かれて、その地位から転落した。この「天使の墜落」は、私たちの惑星の歴史においては途方もない出来事であったが、太陽系の歴史においては、一時的な興味深い現象にすぎなかった。また、私たちの太陽系がその一つにすぎない七つの太陽系内での出来事としては些細な偶発的な出来事にすぎなかった。ここで立ち止まって、いま述べたことについてしばらく考え、あなた方の価値観を再調整しなさい。出来事の重要度を測る基準は視点に応じて変化する。（私たちの地球における意識の開花という視点から見れば）極めて重要で決定的な価値を持つように思える要因も（宇宙の視点から見れば）些細な意味しかないかもしれないのである。個人の出来事は本人にとっては重大な意味があるが、全体としての人類にとっては小さなことである。すべては、何が生命のドラマの舞台の中心を占めているかによって決まり、些細な出来事であれ重大な出来事であれ、どのような中心的要素の周りを巡っているかに左右される。

自然の第四王国つまり人類の表現である力と生命の半径内に、主要なグループ分けの特徴になった「独立しているという思い込み」と「離脱」に対応するものが見られた。後期レムリア時代において、当時の観点から見れば高度な進化を遂げ、世界の弟子たちの中に数えられた人々の一団が、惑星ハイラーキーと対立し、彼らは「イニシェートたちの法則」から離脱した。当時、教えの強調点は生命の物質面に置かれ、注目の焦点は肉体性質とその統御に置かれていた。『いにしへの注釈書』は、何が起こったかを次のような言葉で伝えている。この古代の聖典のリズミカルな叙事詩を読むとき、そこで言及されているのが、現在のユダヤ民族の先祖であった弟子たちのグループについてであるということを確認するのは賢明であろう。

人々の運命を導く内界のグループから法が発せられた。無執着になれ。そして、掴み、獲得し、自分のものにする力を内に引き上げよ。人の世を去り、光の中に入るよう自らを訓練する神の子らはいつも手ぶらで旅をする。彼らは獲得したものを持ち運ばない。身軽になり、平和の門を通過して中に入れ。

門の外で待ち、門を開けよという言葉が発せられたときに入る準備ができていた神の子らの中には、地上の宝物を抱え込んでいる者もいた。彼らはその宝物を生命の主に捧げるために持ってきたのである。しかし、生命の主は彼らの贈り物を必要とはしなかった。彼らは、利己的な目的のためではなく、獲得した世界の宝物を捧げることで彼らの愛を示すつもりで、その門を通過して中に入ろうとした。

再び、言葉が発せられた。すべてを手放し、地上のものは何も持たずに門のこちら側に来るようにと。彼らは立ち止まり、言い争った。準備ができた他の人々は光の中に入り、門の二本の柱の間を通過した。彼らは持ってきた荷物を置き去りにして、手ぶらで中に入り、何も持ち込まず、受け入れられた。

彼らは集団で旅をし、集団で進歩し理解したため、この集団は神聖な命令に反応して、立ち止まった。そこで彼らは、一千周期の間に集めた宝物を掴んで、道の入口の前に立ち、待った。彼らは何一つとして残しては行きたくなかった。彼

らは獲得した宝物のために長い間働いてきたのである。彼らは神を愛していた。彼らは獲得した宝物をすべて神に捧げようとした。彼ら是指図されることを好まなかった。

再び言葉が発せられた。あなたが手にしているすべてのものを地上に放り出し、手ぶらになって入れと。

しかし、三人はその断固とした命令に背いた。残り的人々は従った。彼らは三人を外に残して門を入った。大勢の人々が至福へと上げられた。三人は依然として、宝物をしっかりと握ったまま入口の外にいた。

世界のどの聖典よりも古いこの太古の書物の中に、フリーメイソン友愛団の物語の秘密を見ることができ、大師が最も親密であった三人に殺されて埋葬されたことの秘密を見ることができる。フリーメイソンのメンバーはみな、私がここで述べた三人のことを知っている。この三人は現在のユダヤ民族の先祖であった。彼らは、何も持たずに身軽になって光のある場所に入るようにという命令に背いた三人の進歩した弟子たちであった。彼らは自分が獲得したものを握りしめ、それを神への奉仕に捧げようとした。彼らの自分では認識していなかった動機は、富への愛着であり、獲得したものを安全に持ち続けたいという欲求であった。過去の教師たちが伝える古代の伝説は次のように告げている。

彼らは地上の門へと顔を向けた。友人たちは先に行った。・・・彼らは後に残った。・・・大師方は会議を開き、光の門に達していながら、光への奉仕を愛することよりも世界の宝物を愛する者たちの運命がどのようなものになるべきかを決定した。再び、依然として扉の外で待ち、命令に反抗する三人に対して、言葉が発せられた。

持っているものを握りしめ、もっと集めるがよい。しかし、平安を知ることはない。マインドの果実を収穫し、多くのものを獲得する力を求めるがよい。しかし、安住できる地はない。

あなた方は主の弟子たちである。そのため、平安を分かち合うことはできず、成功するかどうかを確信することもできず、獲得したものを握りしめる力もない。

すべてを見下ろす方についての仄かな知識は常に存在するであろう。集め蓄えたいという衝動は常に存在する。しかし、それを握りしめて楽しむための時間は決してない。それゆえ、再び時が巡ってくるまで放浪せよ。そして再び、今度は何も持たずに光の扉の前に立ちなさい。そのときは何も持たずに、主の僕らに受け入れられて、中に入り、永遠に平安を知りなさい。

古代の伝説は次のように告げている。三人は、悲しみと反抗心に満たされながら、彼らの宝物を抱えて立ち去った。このようにして、放浪するユダヤ人の歴史は始まった。地上で働き、道と達成を自ら縮図として表現した偉大なる神の子らのうちの一人、ナザレのイエスはユダヤ人であったことを思い出すことは有意義である。彼はそれまでのすべての状態を覆した。彼は何一つ所有しなかった。彼は人類の中で最初に達成した方であり、無執着のドラマに反抗した三人のうちの最年長者の弟子の直系の子孫であった。ユダヤ人は世界という放蕩息子を身をもって表している。ユダヤ人は正しい価値観という教訓をまだ学んでいない弟子の象徴である。ユダヤ人は光の法則の犠牲者、その法則に従う能力のなさの犠牲者であった。ユダヤ人は故意に、そして大きく見開いた目で結果を見つめて罪を犯した。したがって、その法則についてのユダヤ人の理解の仕方は他の民族とは違うものである。というのは、ユダヤ人は永遠にその法則の犠牲者だからである。ユダヤ人はその法則を否定的な視点から宣言してきた。モーゼの十戒は今日、世界の大部分を規定しているが、正義と真の正当性を生活の場にもたらすことはまだできていない。

(当時は)民族の代表者たちであった他の弟子たちは、古代のイニシエーションの門を通して、偉大なる最初の一步を踏み出した。彼らは、三人の仲間の弟子たちと別れた出来事についての秘められた記憶をかすかにもって戻ってきた。地上での生活に戻ったとき、彼らはこの出来事のことを話した。これは彼らの過ちであった。長きにわたる敵意の火ぶたが切れ、それは今日でも続いている。この弟子たち自身は、長い巡礼の旅を経て、永遠なる平安に入った。しかし、隠さ

れたイニシエーションの出来事で彼らが以前犯した裏切りの結果は、今も影響を及ぼし続けている。

奇妙なことに、自分が受けるよう切望していたものよりも差し出さなければならないものを愛した三人の弟子たちを先祖に持つこの古い民族は、フリーメイソンの伝統を最初に築いた人々であった。彼らの歴史は(それに付随して、人類の歴史は)、フリーメイソンのドラマ仕立ての儀式の中に表現されている。彼らの誠実さの報酬は というのは、彼らは自分たちが最もよく知っていると感じて、完全に誠実な気持ちで反抗したからである 毎年、彼らが光の中に入っていたかもしれない日が巡ってきたときに、光の探求の物語を舞台上で演じることが認められたことであった。彼らは地上での死からほとんど蘇り、光の生命へと入っていたため、秘儀の偉大なる伝統が彼らによって開始された。彼らは死を選択した。そして、「それまで生き続け、報酬を要求することができ」、復活の扉を大きく開く力の言葉を発することができたものを殺害した。

この三人は、互いに支え合い、決して互いを見放さないという永遠の誓いを立てたと伝えられている。この誓いを彼らは幾多の時代を通して守ってきた。その結果、他の民族の敵意を引き起こす民族的な分離性と利益共同体が生まれた。

昔から、ユダヤ人はずっと彷徨い、世界に多くの美を生み出し、大勢の極めて偉大な人々を人類に提供してきた。しかし、(同時に)憎まれ、迫害され、裏切られ、追い出されてきた。ユダヤ人は人類の歴史を身をもって象徴的に演じている。掴み、握りしめ、さらに自らの民族的国家的な統一性を保とうとするユダヤ人の古くからの傾向は、彼らの際立った特性である。彼らを同化吸収することは不可能である。それにもかかわらず、この民族は非常に古いため、古代レムリア時代において その最も進歩していた人々すべてが弟子道を歩んでいたほど非常に進歩していたこのグループを先祖としない国は世界に存在しない。西洋世界には、フィンランド人、ラップ人、明確にモンゴロイドの血を引く国家を除けば、この最古の選民の子孫ではない民族血統は存在しない。しかし、ユダヤ人の血と現在呼ばれているものとの混血は、他の民族との混血ほどは見られない。そして、現代のユダヤ人は、アングロ・サクソン人と同じように、枝分かれた民族である。ただし、選択的な傾向を課し、民族的に分離することを通して、彼らは原初の特徴の多くを純粋な形で保ってきた。

先祖が同じであるということを知っていたからこそ、イギリス系ユダヤ人は真理を歪曲し、現代の西洋の歴史は離散したユダヤ人から始まったとしたのであった。真実はそれよりもずっと古い時代に関係し、旧約聖書に述べられているように、ユダヤの歴史よりも前の時代にまでさかのぼる。最初の三人の弟子と彼らの血族たちは三大民族の祖先であるが、この三大民族は以下のように一般化して述べることができる。

1 聖書の時代と現代のセム系民族。アラブ人、アフガン人、ムーア人、これらの民族の直系子孫と傍系子孫。その中には現代のエジプト人も含まれる。これらの民族はすべて、三人の弟子のうちの最年長の弟子の子孫である。

2 ラテン系民族。世界中に散らばっている彼らの様々な分派。至るところに見られるケルト系民族。これらは三人の弟子のうちの二番目の弟子の子孫である。

3 チュートン人。スカンジナビア人。アングロ・サクソン人。彼らは三人の弟子のうちの三番目の弟子の子孫である。

以上述べたことは大まかな概括である。関係する時代は非常に長期にわたっており、多くの時代を経て、多様に枝分かれしているため、私には概略的な考えを提供することしかできない。三人のうちの二人の弟子の子孫たちは、アトランティス時代に広まった様々な言い伝えを受け入れて、今日でもそうであるが、ユダヤ人に敵対していた人々の側についた。彼らは共通の祖先を持っているという感覚を完全に失ってしまった。今日の世界には純粋な民族は存在しない。過去2、3百万年の間に、他の民族との結婚、不義の関係、乱交が繰り返されたため、純粋な血統は全く存在しない。民族を民族

ならしめる根本要因は、絶えざる民族間の混血を切り抜けてきたものは別として、強制された隔離ではなく、気候風土である。絶えざる民族間の混血があつたにもかかわらず、民族の統一性をある程度守ってきたのは、今日ではヘブライ人だけである。

人類が共通の先祖を持つという事実に目覚め、現代文明における三大主要血統が認められたとき、古くからのユダヤ人に対する憎しみは消え去り、ユダヤ人は他の民族に溶け込むであろう。偉大なるアトランティス文明の末裔である東洋の民族でさえ、現代のユダヤ人や他の民族の祖先との混血を行った形跡がある。しかし、東洋の民族の混血はそれほど進んでおらず、西洋の民族よりも自分たちの特徴を色濃く保持してきた。

以上述べたことを熟考し、フリーメイソンの伝統を徹底的に研究するならば、多くのことがあなた方のマインドにおいて明らかになるであろう。民族学者たちは受け入れないかもしれないが、私が述べたことが偽りであるという証拠を示すことは彼らにはできない。というのは、現在の民族に関する世界的な状況の起源は、人類史における非常に古い時代にまでさかのぼるため、民族学者たちは自身の主張を裏付けることさえできないからである。彼らが考察できるのはせいぜい過去十万年の歴史であり、彼らの主張は、その過去の影響を論拠にしており、原初の原因を論拠にしているのではない。

(引用終わり)

上記のアリスベイリーの資料を要約すると、以下のようになる。

- フリーメイソンは非常に古い時代にユダヤ人によって作られた。従って、フリーメイソンにはユダヤの色合いが見られる。
- 神の子らが「夜明けの子であるルシファー」に導かれて、その地位から転落したことが太古の古典で寓意的な意味で伝えられており、旧約聖書の中でも繰り返し述べられている。
- 後期レムリア時代において、当時、高度な進化を遂げた世界の弟子たちの中に数えられた人々の一団が、惑星ハイラーキーと対立し、彼らは「イニシエートたちの法則」から離脱した。(物質性の勢力、黒魔術の誕生)
- 古代の聖典のリズミカルな叙事詩が伝えている事実：ユダヤ民族の祖先である3人の弟子が掴んで握り締めている宝物(物質)を手放すようにとの師の命令に背いた。
- かつて人類を指導、監督していた大師が最も親密であった3人の弟子に殺されて埋葬された。フリーメイソンのメンバーはこの3人のことを知っており、この3人はユダヤ民族の先祖である。彼らは獲得したものを神への奉仕に捧げようとしたが富への愛着や獲得したものを安全に持ち続けたいという隠された動機を持っていた。
- ユダヤ人(ユダヤ人の3人の祖先)は高度に進化した弟子でカルマの法則や人間自身が神であることを知っていた。そしてこれらの法則をよく知った上で確信犯的に物質に執着して掴んだものを握り締めるという罪を犯した。ユダヤ人は物質の価値観に囚われた。

(注：霊が物質に降下して再び霊に帰還するという宇宙の法則の中では物質は善悪の二元概念の中で悪に分類される)

- この3人を先祖に持つこの古いユダヤ民族がフリーメイソンの伝統を最初に築いた人々であった。

(注：『ロスチャイルドの密謀』(ジョン・コールマン博士著 太田龍訳)p.330,331によれば、フリーメイソンは旧

約聖書のバビロニアを武力で支配したニムロデが開祖であると称しており、ロスチャイルドは極秘の家系図によればニムロデの子孫ということになっているという。)

- この三人は、互いに支え合い決して互いを見放さないという永遠の誓いを立て、この誓いを彼らは幾多の時代を通じて守ってきた結果、民族的な分離性と利益共同体が生まれた。
- 古代レムリア時代においてその最も進歩していた人々すべてが弟子道を歩んでいたほど非常に進歩していたこの古い民族を先祖としない国は世界に存在しない。
- イギリス系ユダヤ人はユダヤ人は全ての民族の先祖であるという真理を知っていたからこそ、その真理を歪曲し、現代の西洋の歴史は離散したユダヤ人から始まったとした。
(注：イギリス系ユダヤ人とはイスラエルにユダヤ人の国家を作ることを正当化したいイギリス系ユダヤ人の代表、ライオネル・ロスチャイルドのことを指しているのではないと思われる。英国の外務大臣アーサー・バルフォア卿がライオネル・ロスチャイルドに「ユダヤ国家樹立」を約束する。 バルフォア宣言)
- アトランティス文明の末裔である東洋の民族（第四根本人種）さえも、現代のユダヤ人や他の民族の祖先との混血を行った形跡があるが、東洋の民族の混血はそれほど進んでおらず、西洋の民族よりも自分たちの特徴を色濃く保持してきた。
- 人類が共通の先祖を持つという事実に目覚め、現代文明における三大主要血統が認められたとき、古くからのユダヤ人に対する憎しみは消え去り、ユダヤ人は他の民族に溶け込むことができる

(以下の記述は意味が分かる人のみ)

- ユダヤ民族の魂光線は第一光線、パーソナリティー光線は第三光線であり、彼らの占星学上の宮は山羊座で、上昇宮は乙女座である。水星と乙女座が彼らの運命において重要な役割を果たしている。
- ユダヤ民族は第三光線の影響力を受けているため、フォースとエネルギーを操作し、望んだ目的を達成するために「陰で糸を引く」傾向がある。